

# ヘーゲル Hegel, Georg Wilhelm Friedrich 1770 ~ 1831

ドイツの哲学者。ドイツ観念論の最高峰ともいえる独自の壮大な哲学を築き上げた。特にその弁証法的な思考と世界観はマルクス(1818~1883)に受け継がれ、後世に大きな影響を与えた。

シュトゥットガルトに生まれ、チュービンゲン大学で哲学と神学を学ぶ。同大学では、詩人ヘルダーリン(1770~1843)、哲学者シェリング(1775~1854)と交友、折しも勃発したフランス革命をヘーゲルは熱烈に歓迎したという。大学卒業後は家庭教師や私講師として各地で生計を立てつつその哲学的思索を深め、1807年、イエーナで最初の大著『精神現象学』を出版した。1816年にはニュルンベルクで『大論理学』を完成し、これによってヘーゲルはようやくハイデルベルク大学に教授として迎えられ、1817年に『エンチクロペディー』でその哲学体系を示した。翌1818年には、プロイセン政府の招聘によりベルリン大学教授となり、ここで最後の大著『法の哲学』(1821)を出版した。ヘーゲルの哲学はプロイセン政府公認のものとなり、ヘーゲルもまたこの国家を哲学的に称揚した。ベルリン大学総長の勤めも果たし、なお権威と名声の頂点にあった1831年、ドイツを襲ったコレラにより急死した。

## Great Books 32 精神現象学(Phänomenologie des Geistes)

カントの哲学は、人間が感覚的にとらえられる現象としての世界と、人間が想像はできても知りえない物自体の世界とを峻別する点で、基本的に二元論であった。カント以後のドイツ哲学は、二元論は絶対的な真理ではないとしてその克服をめざし、フィヒテ、シェリング、ヘーゲルらは、いずれも人間の観念を中心にした一元的世界観を提唱した(ドイツ観念論)。なかでも、ヘーゲルは主観と客観の合一を徹底させるとともに、それがいかにして現実の世界となって生成するかを、きわめてダイナミック(動的)かつ詳細に記述した。この思想を初めて全面的に展開したのが『精神現象学』である。ヘーゲルにおいて世界の根源というべき絶対者は「精神(Geist)」である。この精神がさまざまなかたちをとって現れ(現象 Phänomen)、自らを発展させていく過程が、「意識」、「自己意識」、「理性」、「精神」、「宗教」、「絶対知」の各章で述べられる。この過程は単純な発展ではなく、相反するものの対立と矛盾、それを止揚しての次の段階への移行、そこでの新たな対立の発生という弁証法的運動をとるとされる。精神が最終的に到達する絶対知の段階では、意識と自己意識が統一され、存在と思考は直接に一体化する。ここに主観(認識)と客観(対象)を統合するヘーゲル哲学の真骨頂というべきものがみられる。

## Great Books 33 法の哲学(Grundlinien der Philosophie des Rechts)

ヘーゲルの哲学では、客観的世界、すなわち社会や歴史も、絶対精神(理性)の自己実現の過程とされるが、その立場から人間の社会規範を論じたのが『法の哲学』である。ここで取り上げられているものは法律だけにとどまらず、個人の内面的な規範としての道徳、そして共同体のあり方としての倫理(人倫)にまで及び、この三者は弁証法的な発展としてとらえられている。序文にある有名なことば「理性的なものは現実的であり、現実的なものは理性的である」は、この書物の基本的な発想と対象を知ってはじめてよく理解できるといっていい。

注目すべきは第3部の「倫理(人倫)」で、ヘーゲルはこれをさらに「家族」・「市民社会」・「国家」の三段階の発展過程としてとらえる。近代化が進み活発になっていた経済社会を「市民社会」としてとらえたのはヘーゲルの鋭い指摘であり、これはマルクスの社会理論に大きな影響を与えた。しかしヘーゲルにとって人間倫理の最高の形態は国家であり、国家こそが個人の自由を実現するものとして、その普遍的意義が強調される。名前こそ挙げていないが、これは現実発展しつつあるプロイセン国家の積極的肯定とみられる。

## ◆ *Great Books* 文献案内

- 📖 ヘーゲル全集 9 a・9 b 法の哲学 上・下 / 上妻精(ほか訳)  
岩波書店 2000~2001年刊 <134.4/7/9-2~3> 資料番号 21246095, 21366158
- 📖 法哲学講義 / 長谷川宏(訳)  
作品社 2000年刊 710p <321.1JJ/226> 資料番号 21251319
- 📖 精神現象学 / 長谷川宏(訳)  
作品社 1998年刊 560p <134.4GG/176> 資料番号 21021175
- 📖 ヘーゲル全集 4・5 精神の現象学 上・下 / 金子武蔵(訳)  
岩波書店 1971~1979年刊 <134.4/7/4A~5> 資料番号 10214351, 10214369
- 📖 世界の名著 35 ヘーゲル / 岩崎武雄(編)  
中央公論社 1967年刊 618p <080/5/35> 資料番号 12784534
- 📖 世界の大思想 12 ヘーゲル / 榎山欽四郎(訳)  
河出書房新社 1966年刊 484, 8p <080/102/12> 資料番号 13446109

## ◆ 理解を深めるために 参考文献案内

- 📖 ヘーゲル伝 / ジャック・ドント(著) 飯塚勝久(訳)  
未来社 2001年刊 543, 5p <134.4KK/192> 資料番号 21429196
- 📖 ヘーゲルの「法」哲学 増補新版 / 加藤尚武(著)  
青土社 1999年刊 306p <321.1HH/224> 資料番号 21173554
- 📖 ヘーゲル『精神現象学』入門(講談社選書メチエ) / 長谷川宏(著)  
講談社 1999年刊 238p <134.4HH/180> 資料番号 21140157
- 📖 精神の現象学への道 / 金子武蔵(著)  
岩波書店 1989年刊 322, 7p <134.4Y/151> 資料番号 20196036
- 📖 ヘーゲル哲学の根源 / 山口誠一(著)  
法政大学出版局 1989年刊 313, 4p <134.4Y/79> 資料番号 20124558
- 📖 ヘーゲル(アウロラ叢書) / オイゲン・フィンク(著) 加藤精司(訳)  
国文社 1987年刊 523p <134.4W/71> 資料番号 12305140
- 📖 ヘーゲル「精神現象学」入門(有斐閣選書) / 加藤尚武(編)  
有斐閣 1983年刊 227, 3p <134.4R/54> 資料番号 12304960
- 📖 人類の知的遺産 46 ヘーゲル / 城塚登(著)  
講談社 1980年刊 375, 4p <280.8K/13/46> 資料番号 10497501
- 📖 ヘーゲル『法哲学』研究序論 / 鷲田小弥太(著)  
新泉社 1975年刊 275p <321.1/51> 資料番号 10740173
- 📖 ヘーゲル全集 全20巻(32冊)  
岩波書店 1931年~ <134.4/7>  
\* 改訳・改版が順次進行中
- 📖 Sämtliche Werke 26vol. / Hegel  
F. Frommann 1927~1939年刊 <134.4/H> 常置  
\* ドイツ語版『ヘーゲル全集』